

II

社会福祉学部教員の教育活動 (教育研究活動年度報告書)

社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧

職名	氏名	学位	主たる担当科目
教授	川崎 育郎	修士（文学）	臨床心理学
教授	前山 智	博士（工学）	福祉情報演習
教授	住友 雄資	博士（臨床福祉学）	社会福祉援助技術総論
教授	田中 きよむ	修士（経済学）	社会保障論Ⅰ・社会保障論Ⅱ
教授	宮上 多加子	博士（社会福祉学）	介護概論
准教授	吉野 由美子	修士（社会学）	障害者福祉論
准教授	長澤 紀美子	博士（学術）	国際福祉論
准教授	玉里 恵美子	博士（社会学）	家族社会学
准教授	西内 章	修士（社会福祉学）	社会福祉技術演習Ⅰ
講師	鈴木 孝典	修士（文学）	精神保健福祉論・精神保健福祉援助実習
講師	西梅 幸治	博士（福祉社会学）	地域福祉論・社会福祉援助技術各論
助教	新藤 こずえ	修士（教育学）	障害者福祉論・NPO論

川崎 育郎

Ikuro KAWASAKI

○研究活動

(1) 臨床活動

スクールカウンセラー活用調査研究事業におけるスクールカウンセラー

高知市の中学校でスクールカウンセラーとして臨床活動を行い、生徒、保護者や教員などへのカウンセリングを定期的実施する。(2008年4月～2009年3月)
高知県内の保育園・幼稚園、小学校・中学校からの相談を受理し定期的に心理治療的援助を実施する。(2008年4月～2009年3月)

子ども相談室 香南市教育委員会の協力を得、ゼミの学生と共に子ども相談室を開き、保護者からの相談を受理し子どもや保護者にカウンセリングなどを実施する。(2008年4月～2009年3月)

(2) 講演や研修会講師

高知市教育研究所 研究会助言者 (2008年4月～2009年3月)

高知市障害児保育担当者研修会講師「障害のある子どもの理解と保育」

高知県ふくし交流プラザ 高知市主催 (4月)

児童養護施設愛仁園・博愛園職員研修会講師 愛仁園主催 (5月)

高知市立大津保育園保護者研修会講師「子育てについて」 (6月)

高知市立種崎西保育園園内研修会講師 高知市主催 (6月)

高知市立たかしろ乳児保育園園内研修会講師 高知市主催 (7月)

香南市立野市東保育園研修会講師 (11月)

家庭教育学級講師「障害のある子どもの理解と保育」津野町教育委員会主催 (11月)

家庭教育学級講師「子どもの反社会的行動や非社会的行動の意味について」津野町教育委員会主催 (11月)

とさやま保育園園内研修会講師 高知市主催 (12月)

長浜保育園園内研修会講師 高知市主催 (12月)

平成20年度スクールソーシャルワーカー活用事業連絡協議会講師 高知県教育委員会主催 (1月)

○教育活動

(1) 講義

- | | | |
|------------------|------------------|-----------------|
| 1. 「臨床心理学Ⅰ」 | 2. 「臨床心理学Ⅱ」 | 3. 「カウンセリング論」 |
| 4. 「カウンセリング演習Ⅰ」 | 5. 「カウンセリング演習Ⅱ」 | 6. 「障害児発達学」 |
| 7. 「心理検査法」 | 8. 「社会福祉専門演習Ⅰa」 | 9. 「社会福祉専門演習Ⅰb」 |
| 10. 「社会福祉専門演習Ⅱa」 | 11. 「社会福祉専門演習Ⅱb」 | |

臨床心理学Ⅰ・Ⅱは選択科目であるが学生の関心は高く、昨年と同様、2回生全員が臨床心理学Ⅰを受講した。学生の受講態度は良好であり事例の話やビデオには強い関心を示し、講義の理解に大きな役割を果たしたようである。障害児発達学は、社会福祉学部の2回生と看護学部1回生が受講した。選択科目であったが、社会福祉学部2回生は全員の学生が受講し、障害のある子どもへの関心の強さが窺われた。看護学部の1回生もほとんどの学生が受講し、熱心に聴講した。当講義においても、学生の評価では事例の話とビデオ

が大変参考になったようである。

学生達は、講義形式の授業も熱心に聴講したが、心理検査法、カウンセリング演習Ⅰ、カウンセリング演習Ⅱのロールプレイやゼミの研究発表、討議などにも強い学習意欲を示した。社会福祉専門演習Ⅰa,b(ゼミ:3回生8名)では文献を用いて児童の理解や援助における基本的なことを学習させた。12月には東海地方の情緒障害児短期治療施設と同志社大学での研修を実施した。社会福祉専門演習Ⅱa,b(4回生7名)では、そのまとめとして卒業研究論文を作成させ、その指導を行った。本年は7名のゼミ生の卒業研究論文の指導を行った。ゼミにおける教育の一環としてゼミ生(3,4回生)を定期的な地域での相談活動に参加させ臨床的経験(養育者との面接や児童とのプレイなど)を与え児童の問題に対する理解を深めさせた。

○委員会活動(学部委員会を含む)

1. 社会福祉学部人事委員会委員
2. 社会福祉学部入試委員会委員

○社会的活動

(1)学会での活動

日本心理学会専門別議員

中国四国心理学会理事

(2)その他(各種委員会委員など)

高知県児童福祉審議会委員長

高知県障害者就学指導委員会会長

高知県福祉基金理事

高知県青少年問題協議会委員

高知県こどもの環境づくり推進委員会委員

高知県児童虐待死亡事例検証委員会委員

香我美中学校生徒死亡事例検証委員会委員

児童養護施設白蓮寮における施設内虐待等に関する検証委員会委員

高知市の子どもと教育を考える会委員

高知市立保育所のあり方等に関する検討委員会委員

高知市教育委員会事務点検・評価委員

高知市教育研究所教育相談員

高知県における特別支援学校の再編に関する検討委員会委員

高知県スクールカウンセラー

高知県臨床心理士会 監査

○総合的評価及び今後の課題

教育的活動や社会的活動について概ね計画していた活動ができたと思われる。研究活動の内臨床的活動において、さまざまな不適応な状態にある子どもへの心理治療的援助や障害のある子どもへの発達の援助と、それぞれの家族や保育者・教員へのカウンセリングのニーズが数多くあった。緊急性や必要性の高い内容が多く、研究活動の重点を相談活動におくことになった。臨床活動にゼミ生を参加させ実際の経験をさせたことは、学生の教育には多大な効果があったように思われる。

前山 智

Satoshi MAEYAMA

○研究活動

内外の研究活動

福祉機器に関する情報収集のために、国際福祉機器展 2008 を視察した。

○教育活動

講義

1 「コンピュータリテラシー」（共通教育情報科目）

永国寺キャンパスの第1情報演習室ならびに池キャンパスの情報演習室において、新入生を対象とした8クラス(文化学部4、看護学部2、社会福祉学部2)を担当し、ワープロソフト Word、表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト PowerPoint の操作を中心に実習形式で授業を行った。高校で情報科目を履修してきているが、パソコン操作の習熟レベルが異なる新入生が受講するため、テキストの操作のより詳しい説明やテキストに記載がない必要事項を補足するプリントを、毎回配布して授業を進めた。

2 「情報と社会」（共通教育情報科目）

看護学部と社会福祉学部の学生が受講する池キャンパスにおける後期の講義を担当した。情報通信、コンピュータ、インターネット、情報倫理を主要テーマとして、視聴覚教材も利用して講義した。昨年までは、二つのスクリーンに、パソコンと OHP で教材を映写して講義を進めていたが、2008 年度は OHP 教材を PDF 化して OHP の使用は止めた。

3 「福祉情報演習」（社会福祉学部専門科目）

前期の「コンピュータリテラシー」の続編として位置付けて、Word、Excel、PowerPoint の操作のステップアップを図るために実習形式の授業を後期に行った。

4 「特別講義Ⅴ(データ解析論)」（大学院人間生活学研究科共通科目）

生活科学部谷本教授と分担して担当し、主として Excel の統計関数を用いた相関分析・回帰分析やピボットテーブルによるクロス集計に関する実習形式の授業を行った。

○委員会活動

1 運営会議、評議会

社会福祉学部長として大学運営に参画。2009 年度に大学認証評価を受審するために作成する高知女子大学自己評価書において、運営会議メンバーとして基準2の統括を担当した。

2 社会福祉学部教授会

議長として教授会を開催し、大学運営会議や評議会の審議内容や決定事項を報告すると共に、大学の方針に則って社会福祉学部の運営を司った。

3 学部人事委員会

人事委員長として、後任2名と前倒し採用2名の計4名の教員の公募を実施し、候補者を決定して、採用手続きを行った。

2 全学入試委員会、学部入試委員会

社会福祉学部の入試実施委員を統括し、社会福祉学部の推薦入試や一般入試の円滑な実施に努めた。入学定員増となる2010年度入試の方法や募集定員について検討し、全学入試委員会に提案して承認を得た。また、2008年度は主に県内で開催された進学相談会に出席

して、社会福祉学部のPRと志願者の確保に努めた。

○社会活動

- 1 身体障害者施設アドレス高知 苦情解決第三者委員

○総合評価と課題

社会福祉学部長の職務と担当授業が中心で、学部長就任以来、研究は休眠状態である。

社会福祉学部については、「2008年度社会福祉学部概括」に述べてあるように、大きな問題もなく運営できていると評価している。今後の課題としては、社会福祉学部拡充に向けて、介護福祉士養成課程の設置申請、志願者確保の広報活動、社会福祉学部棟の改修、新教員の採用などを進め、先ずは、2010年度に拡充されるニュー社会福祉学部をスムーズに船出させることである。

教育活動においては、担当している共通教育情報科目をコンピュータ技術や通信技術の進歩に対応させるべく、教育内容を少しずつではあるが改善しているが、技術の進歩に追随することが難しい。コンピュータリテラシーの授業で使用している情報演習室では、2003年に更新されたパソコンを使い続けているため、ハードとソフトがともに古くなっており、授業で習う操作と学生が購入している新しいパソコンでの操作に乖離が生じてきている。

住友 雄資

Yuji SUMITOMO

○研究活動

① 学術論文

鈴木孝典・西梅幸治・西内章・新藤こずえ・住友雄資（2009）「高知県における社会福祉士の研修ニーズ—高知県域における社会福祉士のための地域内研修システムの構築に向けた基礎研究—」『高知女子大学紀要（社会福祉学部編）』58, 75-84.

② 著書

住友雄資（2009）「精神保健福祉援助活動の内容と機能」石川到覚・金子努・田中英樹編『新・精神保健福祉援助技術総論』中央法規出版, 14-22.

住友雄資（2009）「精神保健福祉士に必要な共通技術」石川到覚・倉知延章・田中英樹編『新・精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版, 314-316.

住友雄資（2009）「契約・介入」石川到覚・倉知延章・田中英樹編『新・精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版, 317-322.

住友雄資（2009）「面接」石川到覚・倉知延章・田中英樹編『新・精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版, 323-331.

住友雄資（2009）「記録」石川到覚・倉知延章・田中英樹編『新・精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版, 332-337.

住友雄資（2009）「演習の方法」青木聖久・岩崎香・住友雄資編『新・精神保健福祉援助演習』中央法規出版, 9-47.

住友雄資（2009）「精神保健福祉援助実習概論」住友雄資・森田久美子・安元紀子編『新・精神保健福祉援助実習』中央法規出版, 1-28.

③ 学会等発表

日本社会福祉教育学校連盟等主催 全国社会福祉教育セミナー 第6分科会報告「高知女子大学社会福祉学部のカリキュラム再編と精神保健福祉士養成」（2008年11月9日）

④ その他 なし

⑤ 学内外資金獲得

高知女子大学学長特枠研究調査プロジェクト「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」主任研究者：住友雄資, 150万円.

○教育活動

[学部]

- ・「福祉研究法Ⅰ」
- ・「福祉科教育法Ⅰ」
- ・「福祉科教育法Ⅱ」
- ・「事例研究法」(未開講)
- ・「ケアマネジメント論」
- ・「精神保健福祉援助技術各論」
- ・「社会福祉援助技術演習Ⅲ」
- ・「精神保健福祉援助実習」
- ・「社会福祉専門演習Ⅰ-a」
- ・「社会福祉専門演習Ⅰ-b」
- ・「社会福祉専門演習Ⅱ-a」
- ・「社会福祉専門演習Ⅱ-b」
(ゼミ生7名)

[大学院]人間生活学研究科(修士課程)

- ・人間生活論演習Ⅱ
- ・スーパービジョン論
- ・課題研究演習(正指導教員3名,
副指導教員5名)

[大学院]健康生活科学研究科(博士後期課程)

- ・精神障害者福祉論
- ・社会福祉特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
(主指導教員7名,
副指導教員7名)

○委員会活動

[学部]

- ・人事委員
- ・自己点検委員
- ・FD委員
- ・教務委員
- ・その他/学部長とともに私学・大学支援課との学部再編協議をおこなった。

[全学]

- ・教務部長として評議会に参加した。
- ・教務委員長として教務委員会を主宰した。
- ・認証評価ワーキンググループ
- ・共通教育ワーキンググループ

[大学院]人間生活学研究科(修士課程) なし

[大学院]健康生活科学研究科(博士後期課程)

- ・学務委員(社会福祉学領域)

○社会的活動

[学会や審議会など]

- ・精神保健福祉士試験委員
- ・日本社会福祉学会 査読委員
- ・日本精神障害者リハビリテーション学会 査読委員
- ・日本精神保健福祉士養成校協会 理事兼事務局次長兼広報委員長
- ・高知県社会福祉審議会 委員長
- ・高知保護司選考会 委員

[講演など]

- ・高知県社会福祉士会主催 講演「改正社会福祉士法と人材養成」(2008年5月17日)
- ・社養協中四国ブロック実習教育研究協議会主催 基調講演「社会的ニーズに応える福祉士教育を考える」(2009年2月21日) など

○総合評価と課題

本年度から教務部長として大学全体の教務業務を担うこととなったため、これまで以上に永国寺キャンパスとの行き来が多くなった。全学教務に関する調整活動が多くなった。

学内業務は、通常の学部教育と大学院教育（修士課程・博士後期課程）に加え、年度後半の県議会での関連予算可決により学部再編準備が本格化した。そのことへの対応が多かった。博士後期課程では、主研究指導教員として初めて博士（社会福祉学）の学位取得者を3名出すことができた。再編準備では学部新規採用人事に携わり、本年度も極めて多忙であった。学部全体は若手主体の活動的な教員組織になったが、学部再編を控え、学内行政・教育・研究活動の枠組みを編成替えする必要がある。そのためか、一昨年度・昨年度に引き続き、スーパービジョン的な業務が増えてきた。

学外業務は、精神保健福祉士試験委員として、第11回精神保健福祉士国家試験問題作成などを担った。日本精神保健福祉士養成校協会理事兼事務局次長として、2009年4月から一般社団法人化準備の中核を担った。

精神保健福祉士養成テキストの編集委員を2冊担当し、新版を刊行することができた。しかし、今年度に原著論文を執筆することができなかった。これが課題である。よい教育をおこなうためにためにも、多忙ということを言い訳にせず、自分自身の研究活動もきちんとこなしていきたい。

田中 きよむ

Kiyomu TANAKA

○研究活動

(1) 著書 (共著)

太田正、金川佳弘、嶋川弘一、田中きよむ、初村尤而、平岡和久、森裕之：財政健全化法は自治体を再建するか、第4章 国保財政悪化スパイラルを助長する財政健全化法、88-99頁、自治体研究社、東京、2008

(2) 論文・報告書

(学術論文)

・田中きよむ：人間の福祉と社会保障—アマルティア・センの福祉経済理論に寄せて—、日本福祉文献学会研究紀要 7：3-16, 2008

・田中きよむ：社会保障制度改革と地方自治体、住民と自治 550：14-19, 2009(2月)

(報告書;共著)

・「連携による子ども支援、家庭支援～佐川町地域支援ネットワークの現状と課題～」文部科学省初等中等教育局児童生徒課「問題を抱える子ども等の自立支援事業」(平成19-20年度)研究成果報告書, 2009(2月) pp. 58-91 (高知県佐川町と田中きよむの共同研究成果であり、田中は、第6章および第7章を執筆担当)

・「限界集落における高齢者の孤立問題と行政・地域社会の支援機能に関する実証分析」平成20年度科学研究費基盤研究(C)一般による年次報告書, 2009(3月) pp. 1-24(田中きよむ、玉里恵美子、水谷利亮、霜田博史の共同研究であり、田中は、「はじめに」および(1)を執筆担当)

・「住民力の育て方」平成20年度高知発地域福祉実践研究会報告書、2009(3月)(高知県社会福祉協議会との共同研究であり、田中は、第1章と第4章1を執筆担当)。

(3) 学会発表

・田中きよむ：国保会計と財政健全化法、四国財政学会第45回研究会、2008

・玉里恵美子・田中きよむ：住民主体のまちづくり活動の形成要因、日本社会福祉学会第56回全国大会、2008

(4) 受託研究

文部科学省初等中等教育局児童生徒課「問題を抱える子ども等の自立支援事業」

研究課題名：「子どもの状況把握の方策及び関係機関連携による効果的対応」

(2007~08年度)

研究代表者：榎並谷哲夫

研究分担者：田中きよむ及び佐川町教育委員会

○教育活動

(1) 学部

（専門教育）

1. 社会保障論 I・II
2. 社会福祉行財政論 I・II
3. 社会福祉専門演習 I —a・b
4. 社会福祉専門演習 II —a・b
5. 公的扶助論 I・II
6. 社会福祉法制論

（共通教育）

1. オムニバス「土佐の健康と福祉」
2. オムニバス「福祉の世界」

(2) 大学院

（修士課程）

1. 福祉行財政論
2. オムニバス「人間生活福祉政策論」
3. 課題研究演習 I・II

○委員会活動

- ・（学部）人事委員会委員、研究倫理審査委員会委員長、自己点検評価委員会委員
- ・（全学）人権委員会委員（学部）入試監査委員会委員（大学院）
- ・（全学）地域創成センター運営委員会委員

○社会的活動

（委員等）

- ・高知県社会教育委員
- ・運営適正化委員会委員
- ・高知県社会福祉協議会 60 年史作製委員会副委員長
- ・地域福祉活動推進委員会委員
- ・福祉サービス第三者評価事業推進委員
- ・高知市社会福祉審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・県内市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
- ・高知県ユニットケア研究会会長
- ・高知県地域福祉研究会代表
- ・全国障害者問題研究会高知支部長
- ・高知県社会保障推進協議会会長
- ・高知県保育運動連絡会会長
- ・社会福祉法人第三者委員、NPO 法人理事長
- ・「高知の移動サービスを考える会」世話人
- ・「高知女子大学・高知短期大学の未来を考える会」代表世話人
- ・「高知県視覚障害者の就労を促進する会」副会長

（講演等）

- ・高坂学園老人大学講演「後期高齢者医療制度の内容と問題点」（2008 年 4 月）
- ・高知県社会福祉施設経営者協議会講演「今後の高知県における社会福祉法人・施設の役割」（2008 年 5 月）
- ・放送大学出前講座（春野町）「高知県における住民主体のまちづくり」（2008 年 5 月）
- ・高知県更生保護女性連盟講演「人のつながりを軸とする幸せのまちづくり」（2008 年 5 月）

- ・日本身体障害者福祉大会コーディネーター (2008年5月)
- ・社会福祉施設等新任職員研修会講演「福祉とは何か、福祉をどうとらえるか、福祉とどう向き合うか」(2008年6月)
- ・第32回高知県リハビリテーション研究大会講演「福祉の本質と障害者福祉の国際動向」(2008年6月)
- ・高知県母親大会分科会講師「後期高齢者医療制度」(2008年7月)
- ・全国障害者問題研究会第42回全国大会(和歌山)分科会助言者(2008年8月)
- ・社会福祉法人昭和会平成20年度職員研修会講演「障害のある人の福祉と福祉システム」(2008年8月)
- ・高知女子大学社会福祉学部：高校生のための公開講座「わかりやすい社会保障の話」(2008年8月)
- ・佐川町保育制度学習会講師「保育制度と社会保障をめぐる動向と構造」(2008年8月)
- ・高知県自閉症協会講演「成年後見制度と権利擁護について」(2008年8月)
- ・土佐町地域福祉講演会講師「住民主体のまちづくりと地域福祉活動計画」(2008年8月)
- ・第57回四国老人福祉施設関係者研究大会講師・助言者「個別ケアの取り組み」(2008年8月)
- ・高知県保育制度学習会講師「介護保険制度の現状から保育制度を考える」(2008年8月)
- ・徳島県保育制度学習会講師「社会保障制度改革と保育所制度のゆくえ」(2008年9月)
- ・介護福祉士国家試験準備講座「社会福祉概論」(2008年9月)
- ・土佐清水市社会福祉大会コーディネーター(2008年10月)
- ・高知市生活福祉課事例検討会講師「今後の生活保護のあり方」(2008年10月)
- ・放送大学特別講座「社会保障制度のゆくえ」(2008年10月)
- ・高知県難病セミナーシンポジウム・シンポジスト「医療制度改革と高齢者・障害者・難病医療」(2008年10月)
- ・高知県主任児童委員研修講師(2008年10月)
- ・高知女子大学社会福祉学部リカレント教育特別講座「社会保障制度改革の動向と構造」(2008年11月)
- ・平成20年度高知県相談支援従事者初任者研修「相談支援における権利侵害と権利擁護」(2008年11月)
- ・高知県隣保館連絡協議会講演「高知県における住民参加のまちづくり」(2008年11月)
- ・高知短大公開講座講師「変化する高齢者の医療・福祉政策」(2008年11月)
- ・高知女子大学社会福祉学部リカレント教育講座「高知県における地域福祉(活動)計画と住民主体の地域づくり」講師(2008年11月)
- ・高知県宅老所・グループホーム連絡会講演「認知症への言葉がけと接し方」(2008年11月)
- ・財団法人保育園未来を語る会研修会講演「民間保育所のこれから」(2008年12月)
- ・高知市生活と健康を守る会講演「生活保護と社会保障の充実」(2008年12月)
- ・土佐市老人クラブ講演「後期高齢者医療制度について」(2008年12月)
- ・社会福祉法人こうち福祉会研修講演「障害のある人に対する権利侵害と権利擁護」(2009年1月)
- ・四万十町生活支援サポーター養成講座講師(2009年1月)
- ・佐川町社会福祉大会コーディネーター(2009年2月)

教育研究活動 2008 年度報告書（田中きよむ）

- ・平成 20 年度四国ブロック市町村社会福祉協議会研究協議会シンポジスト・コーディネーター（2009 年 2 月）
- ・土佐市社会福祉大会講演「転換期の社会福祉と住民主体のまちづくり」（2009 年 2 月）
- ・高知医療生協講演「高知県のまちづくり」（2009 年 3 月）

○総合評価と課題

- ・研究面では、十分な成果があげられなかったもので、反省しつつ、来年度に臨みたい。
- ・教育面では、講義に関しては、下級学年で身につけたはずの素養が上級になって希薄化している面が見受けられる。社会保障制度に関する知識と理解能力を持続的に深め高めていけるような創意工夫が必要であり、来年度においても、学生の知的好奇心を常に喚起するさらなる工夫をしてゆきたい。卒論指導に関しては、地域福祉の方に関心がより強い傾向が見られたので、地域調査研究能力の育成にも考慮した指導を図ってゆきたい。
- ・社会的活動は、充実していたと言える。地域ニーズや生活問題の多様化に伴い、活動領域の広がりが見られる。

宮上 多加子

Takako MIYAUÉ

○研究活動

(1) 論文

宮上多加子(2009)「介護ケアの専門性に関する覚え書」『ふまにすむす』第20号, 28-31.

(2) 学会発表 なし

○教育活動

講義の概要

[学部]

1. 「介護概論」「介護演習Ⅰ」「介護演習Ⅱ」

「介護演習Ⅰ」「介護演習Ⅱ」では、学内および学外研修施設利用した体験的な演習内容を取り入れた。ここ数年は受講者数が少しずつ減少している。

2. 「保健福祉論」「高齢者保健論」

「高齢者保健論」と「母子保健論」は隔年開講となっているため、H20年度は「高齢者保健論」を開講した。

3. 「ケアマネジメント演習」

事例を用いて演習形式により講義を実施した。今年度の試みとして、パソコンソフトを用いたアセスメントとケアプランの作成を行った。

4. 「社会福祉専門演習Ⅰ－a・b」

本年度の受講者は2名である。研究活動に関する基礎的な力を身に付けることができることを目標とした継続的な指導とともに、県外で行われた認知症ケア関係の学会参加や春季休暇を利用した一日合宿などの新しい試みのほか、県内の高齢者福祉施設の見学などを行った。

5. 「社会福祉専門演習Ⅱ－a・b」

本年度の受講者は4名である。なお、社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱの実施内容の詳細については、ゼミ記録として冊子にまとめた。

6. 「保育学（実習および家庭看護を含む）」

生活科学部にて開講されている科目であり、オムニバスで担当した。

[大学院（人間生活学研究科）]

1. 「介護福祉学」

介護福祉に関係した理論と現状について解説し、介護福祉が果たす役割と課題に関する検討を行った。

2. 論文指導

正指導教員としてM1生1名、M2生1名、副指導教員としてM1生1名、M2生以上5名を指導した。修士論文作成に関するディスカッションの場として、院生だけでなく大学院研究員や学部生の参加も募り、大学院ゼミを定期的開催した。

[大学院（健康生活科学研究科）]

副指導教員として、院生6名の論文指導を担当した。

○委員会活動

[学部]

1. 評議員
2. 学部教務委員会（委員長）／学部FD委員会（委員長）
3. 学部人事委員会／自己点検評価委員会
4. 学部倫理審査委員会
5. 全学教務委員会／教職課程専門委員
6. 総務委員会／予算委員会

[大学院（健康生活科学研究科）]

1. 入試委員

○社会的活動

1. 高知市民生委員推薦会委員
2. 日本地域福祉学会地方部会委員
3. 日本認知症ケア学会生涯学習委員会四国部会委員
4. 高知県福祉基金理事
5. 高知県医療審議会委員

○公開講座等

1. 高知県社会福祉協議会介護福祉士養成講座講師（9月）
2. リカレント教育講座特別講演コーディネーター（2月）

○総合評価と今後の課題

今年の前半は、社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験受験資格指定科目の改正が行われたことを受けて、平成21年度から適用される新カリキュラムの検討と導入に伴う手続きに追われた感があります。また、9月県議会で県立大学改革の決議が行われてからは、介護福祉士養成課程導入に伴う資料作成を一手に引き受けることになり、介護福祉士指定科目を含めたカリキュラム作成と学内設備の検討、介護実習施設の依頼手続き、また専任教員の人事といった複数の業務を同時に進めた数ヶ月でした。3月末には、四国厚生支局に介護福祉士学校設置計画書を提出することができ、準備の第一段階をクリアすることができました。準備を進める中では、介護福祉現場の声を聞く機会も多く、大学での介護福祉士養成に期待を抱いているとの意見もあり、私自身にとっては一つの収穫であったと思います。

研究面においては、残念ながら目立った成果を得ることができませんでした。要因として、学部業務が煩雑であったこともありますが、加えて、私自身が研究テーマについて少し方向転換を検討したことも要因となっています。従来取り組んできた「認知症介護実践力」に関しては一区切りをつけ、新たな研究テーマとして高齢者福祉施設の介護職員を対象としたキャリア意識の研究に取り組みたいと考えています。この研究テーマに関しては、現時点ではデータ収集と分析の途中であり、まだ研究論文作成までには至っておらず、次年度は早急に成果をまとめて公表したいと思います。また、リカレント特別講演でコーディネーターをさせていただいた金井一薫先生が提唱されているKOMI理論を一つのツールとして、大学と地域の看護・介護職の方々がつながり、研究・実践を行っていくことができる場を設けたいと考えています。

吉野 由美子

Yumiko YOSHINO

○研究活動

(1) 学術論文

なし

(2) 学会発表

- 1 「Scuba diving and its effect on vision capability for people with visual disabilities—From a case study of one visually impaired diver. (スクーバダイビングがロービジョン者の見る能力へ与える影響—あるロービジョン者の事例検討から—)」ビジョン2008 (国際ロービジョン学会) (ポスター発表) 2008年7月9日 カナダ モントリオール
- 2 「スクーバダイビングがロービジョン者の見る能力へ与える影響—あるロービジョン者の事例検討から—」(ポスター発表) 第9回日本ロービジョン学会・第24回日本眼科看護研究会 2008年9月21日 東京
- 3 「スクーバダイビングがロービジョン者の見る能力へ与える影響—あるロービジョン者の事例検討から—」第50回弱視問題研究大会 研究発表 2009年1月15日東京

○教育活動

(1) 講義

社会福祉学部の専門科目では、1年生の前期に「現代生活と社会福祉」を担当し、児童福祉論Ⅰ・障害者福祉論Ⅰ・社会福祉史Ⅰを2年生前期で、児童福祉論Ⅱ、障害者福祉論Ⅱ、社会福祉史Ⅱを2年生後期で講義した。又、共通教育科目「福祉の世界」の責任者として前期6コマ、「土佐の健康と福祉」の責任者として前期2コマ担当した。

(2) 演習科目と実習

4年生担当科目として社会福祉専門演習Ⅱa・Ⅱbについては、今年度は履修学生がいなかった。

○各委員会活動 (学部委員会を含む)

- 1 全学部的には、広報委員として、オープンキャンパスの企画を行った。また、紀要編集委員として紀要の編集を行った。
- 2 社会福祉学部においては、学部広報担当として学部のオープンキャンパスの企画運営、高校生のための講座やリカレント講座の企画運営の補助を行った。また、紀要編集担当として、学部の紀要原稿の募集、編集を担当した。

○社会的活動

①講習会・講演会活動

- 1 2008年8月15日 「視覚障害に関する基礎知識－ロービジョン者の話を中心に－」
盲老人ホーム楠木荘職員研修事業
- 2 2008年10月4日 「障害学－視覚障害について－」
日本バリアフリー化・インク協会公認サポートガイド－養成講習会
講師（高知市）
- 3 2008年10月16日 「児童福祉論Ⅰ」
高知県こども課による児童福祉司養成講習会講師（高知女子大）
- 4 2008年10月23日 「児童福祉論Ⅱ」
高知県こども課による児童福祉司養成講習会講師（高知女子大）
- 5 2008年10月30日 「障害者福祉論」
高知県こども課による児童福祉司養成講習会講師（高知女子大）
- 6 2008年12月7日 「難病連による相談会（視覚障害者）の相談者」
（四万十市）

②依頼された審議会など

- 1 高知市障害者計画推進協議会委員・委員長 平成12年3月25日
- 2 高知県障害者施策推進協議会委員 平成12年5月から平成20年3月まで
- 3 高知県医療審議会委員 平成12年8月1日から平成21年7月31日まで
- 4 社会福祉法第83条に規定する運営適正化委員会委員
平成12年11月1日から平成20年11月まで

本年度は、高知市の障害者福祉計画の策定の年であり、そのため「高知市障害者計画推進協議会」の委員長としての仕事が審議会活動の中心となった。また、今年度で退職の予定であったため、徐々に委員会の任務から退いて行った。

③ 視覚障害リハビリに関する活動

来年度退職後、高知県における視覚障害リハビリテーションの更なる普及と、システムづくりに専念するつもりであったから、第18回視覚障害リハビリテーション発表大会などを高知で行う準備に力を尽くした。また、視覚障害を持つ乳幼児の発達について研究している視覚障害児早期教育研究会を、高知に呼ぶ準備にも力を尽くした。

○総合評価及び今後の課題

私のライフワークである「視覚障害リハビリテーション」に関する実践活動に重点をおくと共に、障害児の教育問題、障害者自立支援法実施に伴う問題などについての啓発活動にも力点を置いた。退職を控え、さらに地域活動に力を注いだので、大学での仕事については、充分に行えなかったことが、問題であると感じた。

高知女子大学社会福祉学部での様々な体験は、私を成長させてくれた。先生方、私と共に学んでくれた学生たちに、感謝してもしきれない。

長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

○研究活動

(1) 論文 (2件)

- ・ 長澤紀美子(2009)「イギリスの医療における住民参加手法－審議制民主主義に焦点をあてて－」高知女子大学紀要(社会福祉学部編) 58, 33-46.
- ・ 長澤紀美子(2009)「消費者主導型介護現金給付の展開－国際的動向とイギリスにおけるケアの「個別化」－」高知女子大学紀要(社会福祉学部編) 58, 47-61.

(2) 報告(研究ノート) (1件)

1. 長澤紀美子(2009)「国際社会において社会福祉専門職教育に求められるもの－IASSW(国際ソーシャルワーク学校連盟)第34回大会に参加して－」『ふまにすむす』第20号, 22-27.

(3) 学会参加 (2件)

1. 社会政策学会(第116回)全国大会(2008年度春季大会)(於: 國學院大學)平成20年5月24日(土): 自由論題(第4 福祉サービス)座長
2. 社会政策学会(第117回)全国大会(2008年度秋季大会)(於: 岩手大学)平成20年10月11日(土): 自由論題(第5 英米における医療問題)座長

(4) 学内外の競争的資金の獲得状況 (1件)

1. 高知女子大学学長特別枠研究・事業助成費「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」(主任研究者住友雄資)の「国際ソーシャルワーク教育の開発について」(分担: 長澤紀美子・新藤こずえ)(平成20年度)

○教育活動

(1) 学部

- ・ 「社会福祉概論Ⅱ」「社会福祉概論Ⅰ」
社会福祉に関わる基礎的な概念と歴史的発展および現在の社会福祉制度、事業、実践活動等を包括的に捉えるため、社会福祉士国家試験問題の活用や年表・ワークシート等の独自教材を作成し、制度や社会状況に関する理解と知識の定着を図ることに主眼をおいた。
- ・ 「国際福祉論Ⅱ」
途上国の児童や女性に対する人権侵害の問題や貧困、人間の安全保障等の問題を取り上げた。講義の一部は、学生が自ら関心のあるテーマを主体的に調べ、発表する演習方式でおこなった。
- ・ 「女性の生活と健康」(オムニバス)
格差社会と女性、ドメスティック・バイオレンスに係わる現状や課題を取り上げた。
- ・ 「社会福祉専門演習Ⅰ－a・Ⅰ－b」受講者2名
- ・ 「社会福祉専門演習Ⅱ－a・Ⅱ－b」受講者4名
- ・ 「社会福祉外書講読Ⅰ・Ⅱ」

教育研究活動 2008 年度報告書（長澤紀美子）

- ・ 「女性福祉論」「国際福祉論 I」本年度は受講生なし。
- (2) 大学院人間生活学研究科
 - ・ 講義「国際福祉政策論」
日本・ドイツ・韓国の介護保険制度比較、アメリカの医療制度・介護制度を題材としながら、OECD 諸国の介護制度に係わるトレンドと課題、また福祉国家類型論について講義し、日本との比較の視点で院生と議論した。
 - ・ 「人間生活福祉政策論」（オムニバス：2 回担当）
政策研究の進め方、日本における福祉国家の変容等について講義した。
 - ・ 正指導教員として M1 生 1 名・M2 生 1 名、副指導教員として M1 生 2 名 M2 生 2 名を担当。

○ 委員会活動

- ・ 学部総務委員長・予算委員長
- ・ 学部研究倫理審査委員
- ・ 全学就職委員・学部 4 年生学年担当
- ・ 大学院学位審査委員

○ 社会的活動

(1) 委員等

- ・ 高知県佐川町公文書開示審査会委員、高知県佐川町個人情報保護審査員
- ・ 財団法人こうち男女共同参画社会づくり財団運営委員会委員、ソーレえいど事業・県民からの企画提案事業選考委員
- ・ 社会政策学会春季大会企画委員（保健医療福祉部会選出）

(2) 公開講座等

- ・ 関東学院大学経済経営研究所「新たな公共研究会」講師「NPM を超えてーイギリス医療・福祉サービスにおけるポスト NPM」（8 月 29 日・関東学院大学関内メディアセンター）
- ・ 平成 20 年度全国母子自立支援員研修会講師「母子家庭の貧困とエンパワメント」（9 月 11 日・三翠園）
- ・ 高知県社会福祉士会平成 20 年度 STEP-UP 研修第 1 回講師「社会福祉士の連携・ネットワークづくり」（11 月 29 日・すこやかな社）
- ・ リカレント教育講座講演コーディネーター（11 月 30 日）

○ 総合評価と今後の課題

- ・ 学部の授業については、パワーポイント、学生のリアクション・ペーパーへの回答や資料を用いたスタイルが定着しつつあるが、用語や概念の定義などについて、わかりやすく事例等を用いた説明や参加型の授業方式の採用など改善の余地がある。大学院の講義については、院生のニーズや研究課題に対応した講義内容、また正指導学生への効果的な教授法についてより研鑽が必要である。学生指導については、最終年度の学年担当及び国試対策支援ワーキンググループの一員として、池ワクワク WORK!! や助教を始めとする教員と協力しながら、就職や国試に関する学生支援を行い、一定の成果（就職率、国家試験合格率）を得たと考える。
- ・ 7 月に南アフリカ共和国で開催された IASSW（国際ソーシャルワーク学校連盟）第 34 回大会に参加したことから、国際ソーシャルワークの動向と日本の社会福祉教育・研究の国際的な位置づけが新たな関心となった。従来の研究テーマ（NPM）と統合しつつ、研究関心を深めていきたい。

玉里 恵美子

Emiko TAMAZATO

○研究活動

(1) 著書 (単著)

玉里恵美子『高齢社会と農村構造—平野部と山間部における集落構造の比較—』昭和堂、2009年2月、全418頁。(平成20年度科学研究費補助金 研究成果公開促進費 学術図書 課題番号205139)

(2) 著書 (共著)

玉里恵美子「農村の家族」、野々山久也編『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社、2009年3月、59-62頁。

(3) 報告 (単著)

玉里恵美子「高知県における集落の現状と集落再生への模索」『高知女子大学紀要社会福祉学部編』第58巻、2009年3月、85-97頁。

(4) 研究ノート (単著)

玉里恵美子「学生援農隊の可能性について」『ふまにすむす』第18号、2009年3月、36-39頁。

(5) 報告書 (共著)

平成20年度科学研究費基盤研究(C)一般課題番号20530526『限界集落における高齢者の孤立問題と行政・地域社会の支援機能に関する実証分析』(年次報告書1)、2009年3月。

(6) 科学研究費獲得

① (単独) 平成20年度科学研究費補助金: 研究成果公開促進費 (学術図書): 課題番号205139『高齢社会と農村構造』。

② (共同) 平成20年度科学研究費基盤研究(C)一般課題番号20530526 研究代表者: 田中きよむ「限界集落における高齢者の孤立問題と行政・地域社会の支援機能に関する実証分析」。

(7) シンポジウム等

① 高知県民生委員児童委員協議会連合会主催、『平成20年度中央西ブロック研修会』、基調講演「見守り活動における民生委員児童委員の役割」、2008年8月19日、於: 佐川町桜座。

② NPO 土佐の森救援隊・高知大学主催、『平成20年度こうち山の日推進事業シンポジウム 森からみる限界集落』、パネリスト、2008年12月13日、於: 高知大学。

③ 全国治水砂防協会主催、『平成20年度中山間地域の防災を考える 地域とともに、活力ある中山間地域へ』、パネリスト、2009年2月21日、於: すこやかセンター伊野。

(8) 共同研究

① 平成20年度安芸市健康づくり意識調査 (安芸市健康づくり推進対策チーム)

② 高知ミモザの会『戦地からの手紙』編集委員会 (県民有志)

(9) エッセイ

① 「農業白書を読んで—グリーンツーリズムは元気な農村あってこそ—」『農業共済新聞』、2008年5月4日付。

教育研究活動 2008 年度報告書（玉里恵美子）

②「大学研究室紹介」高知県産業振興センター・高知県中小企業支援センター『情報プラットフォーム』No. 248、2008年5月。

○教育活動

（1）学内担当講義

社会科学入門

家族社会学

地域社会学

社会福祉援助技術各論Ⅱb

社会福祉援助技術演習Ⅳ

社会調査演習Ⅰ

社会調査演習Ⅱ

社会福祉専門演習（ゼミ）Ⅰa・Ⅱa

オムニバス：福祉の世界（共通）：よさこいの福祉力

オムニバス：土佐の健康と福祉（共通）：中山間地域の高齢化と過疎化

（2）学内学生生活動支援

グローバルクラブ（日韓学生よさこいチーム Japarean） 顧問

高知女子大学援農隊 顧問

（3）学外非常勤講師

高知大学共通教育「社会学を学ぶ」

高知大学教育学部「地域社会学概論」

○委員会活動

（1）学内委員会活動

1. 全学国際交流委員会

2. 全学総合情報センター委員会

3. 全学入試委員会

センター入試部会

4. 学部入試委員会

（2）学外委員会活動

1. 高知県農林水産部：高知県農業経営・生産対策等に関する第三者委員会

2. 高知県社会福祉協議会：評議会（評議員）

3. NPO 高知市民会議&四国銀行：高知市まちづくりファンド運営委員会

4. 大豊町：大豊町行政文書開示審査会委員

5. 大豊町：大豊町行政諮問会議

6. 高知田内千鶴子愛の会

西内 章

Akira NISHIUCHI

○研究活動

・著書

1. 西内章 (2009) 「ソーシャルワークの支援特性と方法」太田義弘編『ソーシャルワーク実践と支援科学』相川書房, 34-46.

・論文

1. 西内章・西梅幸治・新藤こずえ (2009) 「高知県における初任スクールソーシャルワーカーの実践課題-子どもとのかかわりに焦点をあてて-」高知県教育委員会平成20年度高知県スクールソーシャルワーカー活用事業調査研究報告書, 14-23.

・報告

1. 鈴木孝典・西梅幸治・西内章・新藤こずえ・住友雄資 (2009) 「高知県における社会福祉士の研修ニーズ-高知県域における社会福祉士のための地域内研修システムの構築に向けた基礎研究-」高知女子大学紀要, Vol. 58, 75-84.

・その他

1. 西内章・鈴木孝典・西梅幸治 (2008) 「分担研究: 高知県における保健・医療・福祉専門職のための学際的教育研修モデル開発について」『平成20年度学長裁量プロジェクト: 健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究 (主任研究者 住友雄資)』

○教育活動

[学部]

- ① 「社会福祉援助技術総論Ⅰ」
- ② 「社会福祉援助技術総論Ⅱ」
- ③ 「高齢者福祉論Ⅰ」
- ④ 「高齢者福祉論Ⅱ」
- ⑤ 「社会福祉援助技術各論Ⅰ-b」
- ⑥ 「社会福祉援助技術演習Ⅱ」
- ⑦ 「社会福祉ふれあい実習」
- ⑧ 「社会福祉現場実習Ⅰ」
- ⑨ 「社会福祉現場実習Ⅱ」「社会福祉現場実習Ⅲ」
- ⑩ 「社会福祉専門演習Ⅰ-a」「社会福祉専門演習Ⅰ-b」
- ⑪ 「社会福祉専門演習Ⅰ-a」「社会福祉専門演習Ⅰ-b」

[大学院人間生活学研究科]

- ① ソーシャルワーク論
- ② 人間生活論演習Ⅱ

教育研究活動 2008 年度報告書（西内章）

○委員会活動

- ①学部実習委員長
- ②学部共通教育専門委員（全学共通教育専門委員会副委員長）
- ③高知女子大学社会福祉研究倫理専門審査委員

○社会的活動

[学外での活動]

- ・高知県社会福祉協議会地域福祉権利擁護事業契約締結審査委員
- ・高知県社会福祉協議会生きがい健康づくり推進協議会委員

[研修会講師・講演]

- ・高知県児童福祉司認定講習会講師「社会福祉援助技術論」担当
- ・高知県スクールソーシャルワーカー活用事業の説明会講師
(宿毛市・四万十市・黒潮町・四万十町)
- ・高知県社会福祉士会 STEP-UP 研修講師
- ・高知県保育士会家族ソーシャルワーク学習会講師

○総合評価と課題

2008 年度の教育研究活動においては、年度当初に教育活動、学内業務、研究活動の進め方が課題にあげていた。そのため、自らのエフォートを意識しながら取り組んだ1年であった。特に2008年度は社会福祉士の養成カリキュラム変更に伴う確認申請手続きを行う必要があったため、前期はそれを優先的に行った。また、研究活動においては、自らの力量の問題もあるが、計画どおりにすすまなかったといえる。

次年度以降も学部定員増計画に伴う申請手続きを進めていかなければならないが、このような状況においても、教育活動、学内業務、研究活動に対しても真摯に取り組むたい。

鈴木 孝典

Takanori SUZUKI

○研究活動

(1) 学術論文

鈴木孝典、西梅幸治、西内章、新藤こずえ、住友雄資「高知県における社会福祉士の研修ニーズ—高知県域における社会福祉士のための地域内研修システムの構築に向けた基礎研究」『高知女子大学紀要』Vol.58、2009.3、pp.77-86.

鈴木孝典「精神障害者グループホームに係る施策の動向と支援の課題」『鴨台社会福祉学論集』No.18、2009.3、pp.73-79.

(2) 著書

石川到覚、鈴木孝典「ケースワークの展開過程」日本精神保健福祉士養成校協会 編『精神保健福祉士養成講座6 精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版、2009.2、pp.2-24.

鈴木孝典「事例17 ドメスティックバイオレンス」日本精神保健福祉士養成校協会 編『精神保健福祉士養成講座7 精神保健福祉援助演習』中央法規出版、2009.2、pp.258-262.

(3) 発表

なし

(4) 競争的資金の獲得

科学研究費補助金(若手(B)、課題番号:19730363、平成19年度~21年度)

研究代表者:鈴木孝典

研究課題名:「精神障害者に対する自立支援サービスにおけるリスク評価尺度の開発研究」

平成20年度学長特枠研究

研究代表者:住友雄資

研究課題名:「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」

○教育活動

(1) 講義

1. 共通教育科目

①「教養セミナー」

②「現代社会論」

2. 専門教育科目

①「精神保健福祉論」

②「精神保健福祉援助実習」

③「精神保健福祉ふれあい実習」

④「社会福祉専門演習Ⅰ-a」、「社会福祉専門演習Ⅰ-b」

⑤「社会福祉専門演習Ⅱ-a」、「社会福祉専門演習Ⅱ-b」

教育研究活動 2008 年度報告書（鈴木孝典）

（2）講義以外

1. 実習支援

配属実習に備えての実習の動機、課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。

2. 国家試験受験者への学習支援

精神保健福祉士国家試験受験者に対して、「精神保健福祉論」、「精神医学」の2教科にかかわる受験対策講座を開講した。

○委員会活動等

（1）学部

1. 実習委員
2. 情報処理委員
3. 新カリキュラム検討委員
4. 3回生学年担当

（2）全学

1. 総合情報センター情報処理部会員

○社会的活動

（1）委員等

1. 高知県精神保健福祉士協会 理事
2. 高知県精神医療審査会 委員
3. 日本精神保健福祉士養成校協会 広報委員
4. 高知県自立支援協議会 委員（2008年2月～）
5. 高知県障害者施策推進協議会 委員（2008年4月～）
6. 高知市自立支援協議会 事務局員（2008年4月～）
7. 社会福祉法人土佐あけぼの会 第三者委員（2008年4月～）

（2）講演等

1. 高知市相談支援事業所生活支援検討会 助言者
(6月4日、8月27日、12月12日、3月4日)
2. 社会福祉法人土佐あけぼの会法人研修会 講師（7月18日）
3. 高知県社会福祉協議会 介護福祉士国家試験準備講座 講師（10月5日）
4. 平成20年度高知県相談支援従事者初任者研修 講師（11月12日）
5. 高知県精神保健福祉士協会新人研修会 コーディネーター
(11月20日、1月29日、3月26日)
6. 高知女子大学社会福祉学部リカレント教育講座 コーディネーター（11月22日）
7. 高知県社会福祉士会 step up 研修会 講師（1月31日）

○総合評価及び今後の課題

（1）教育活動について

本学で授業を担当し始めてから3年が経過した。授業の内容及び方法についても、一定のスタイルが形成されつつある一方で、他の教員が受け持つ関連科目との整合性や学習課題の達成度の学生間格差など、多くの課題に気が付く一年であった。なお、年度当初に立てた、リアクションペーパーの活用については、授業時間内に記入時間を設定したり、後日の提出を認めるなど改善を図った。

来年度は、関連する科目を担当する教員との授業内容の調整を試みること及び担当科目

の内容を理解するための一般基礎知識（社会の仕組み、政治経済の仕組み等）を再学習するための教育プログラムの企画、実施を試みることを活動の課題としたい。

（2）研究活動について

今年度は、昨年度に獲得した科学研究費補助金（若手B）に係る研究を中心に活動を展開した。具体的には、これまでの精神保健福祉領域のサービスに係るリスク研究の成果を実践場面に応用するための知見を得るため、ヒアリングを中心としたフィールドワークを展開した。さらに、学長特任研究のメンバーとして、学部教員と共に共同研究を展開した。

来年度は、科学研究費補助金の最終年度でもあるため、精神保健福祉実践に役立つツールの開発を目指すとともに、学内共同研究についても一定の役割を果たしていきたい。

西梅 幸治

Koji NISHIUME

○研究活動

（１）研究会参加

エコシステム研究会（関西福祉科学大学大学院太田義弘教授が主催）への参加

（２）研究資金の導入

文部科学省科学研究費若手研究（B）「コンピュータ支援ツールを用いた知的障害のある人との協働アセスメント方法の構築」（平成 19～21 年度）

（３）学会参加

日本社会福祉実践理論学会、日本社会福祉学会への参加

発表：西梅幸治（2008）「エンパワメント実践における Perspective の検討—エコシステムと社会構成主義との比較から—」第 56 回日本社会福祉学会（岡山）

（４）論文等

著書：西梅幸治（2008）「過程展開へのコンピュータ支援」太田義弘編著『ソーシャルワーク実践と支援科学—理論・方法・支援ツール・生活支援過程—』相川書房，74-87.

西梅幸治（2008）「障害のある人をめぐる生活支援展開」太田義弘編著『ソーシャルワーク実践と支援科学—理論・方法・支援ツール・生活支援過程—』相川書房，142-156.

論文：西内章・西梅幸治・新藤こずえ（2008）「高知県における初任スクールソーシャルワーカーの実践課題—子どもとの関わりに焦点をあてて—」高知県教育委員会『平成 20 年度高知県スクールソーシャルワーカー活用事業調査研究報告書』14-23.

報告：鈴木孝典・西梅幸治・西内章・新藤こずえ・住友雄資（2008）「高知県における社会福祉士の研修ニーズ—高知県域における社会福祉士のための地域内研修システムの構築に向けた基礎研究—」『高知女子大学紀要社会福祉学部編』58，75-84.

○教育活動

（１）担当科目

- ・「総合演習」
- ・「地域福祉論」
- ・「社会福祉援助技術各論Ⅱ-a」
- ・「社会福祉専門演習Ⅰ-a」
- ・「社会福祉専門演習Ⅱ-a」
- ・「社会福祉ふれあい実習」
- ・「社会福祉現場実習Ⅱ」
- ・「福祉研究法Ⅱ」
- ・「社会福祉援助技術各論Ⅰ-a」
- ・「社会福祉援助技術演習Ⅰ」
- ・「社会福祉専門演習Ⅰ-b」
- ・「社会福祉専門演習Ⅱ-b」
- ・「社会福祉現場実習Ⅰ」
- ・「社会福祉現場実習Ⅲ」

○委員会活動

（１）全学

- ・入試実施委員

(2) 学部

- ・入試委員長
- ・実習委員 (日本社会福祉士養成校協会担当)
- ・総務・予算委員
- ・学部2回生学年担当

○社会的活動

- ・日本社会福祉士養成校協会中四国ブロック 運営委員
- ・高知県社会福祉士会 理事
- ・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業 スーパーバイザー
- ・高知県立高知丸の内高校 模擬授業講師
- ・高松大学発達科学部 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 通信課程講師

○総合評価及び今後の課題

(1) 研究活動について

今年度は、本学部教員として3年目で昨年に引き続き、教育活動や委員会活動に慣れ専念することが最優先であった。研究活動については、学会発表、著書・論文作成などに十分とはいえないが時間を割くことができた。特に研究会では、社会福祉サービス利用者の生活状況理解のための方法と、その方法に基づいたコンピュータ支援ツールの研究と開発に継続的に参加できており、有意義な時間をもつことができた。今後は共同研究者とその成果を公表していきたい。そのうえで自身の研究テーマ「コンピュータ支援ツールを用いた知的・発達障害のある人との協働アセスメント方法の構築」を進展させていきたい。

(2) 教育活動について

授業準備：

授業では、レジメを作成・配布し、適宜パワーポイントによるスライドも導入しながら、学生が重要なポイントを理解できるように工夫した。またレジメの他にも資料を配付し、学生の理解度を高めるように努力したつもりであるが、今後も継続した改良が必要である。

授業展開：

授業のなかでは、学生たちの「聞く」「見る」「書く」「話す」をバランス良く表現でき、「理解する」「考える」「体験する」ことができるような工夫が必要だと感じている。また特に援助技術系の科目については、理論と事例検討を交えながら講義を進めるなど、理論と実践を十全に融合し理解できるような工夫を今後も重ねていきたいと考えている。

社会福祉現場実習指導：

まず事前学習では、実習への動機を高め、効果的な実習を行うための指導や相談を今後も丁寧に行いたい。また事後学習については、現場で得てきた経験の振り返りや意味づけを重視した指導に努めたい。実習の事前・事後学習ともに、少人数制を活かし、face-to-faceでの個別指導やスーパービジョン、学生同士がお互い共感や考え方を深めていくことができるようなグループ学習を重視し、その効果についても検討していきたい。

卒論指導： 今年度は、3名の学生の指導を行った。

(3) 委員会活動・社会的活動について

本年度はもとより今後も努力と経験を重ね、委員会活動・社会的活動を通じて、学内はもちろん地域や社会に貢献できるように取り組んでいきたい。

新藤（太田）こずえ

Kozue OTA-SHINDO

○研究活動

(1) 論文（4件）

新藤こずえ「障害を持つ子の社会的自立に対する親の意識に関する考察 - 障害福祉サービス事業所Xを事例として -」高知女子大学紀要（社会福祉学部編）58, 15-31.

新藤こずえ「親と暮らす障害者の自立—重度障害児・者を抱える親へのインタビュー調査を中心に—」教育福祉研究15：印刷中

鈴木孝典，西梅幸治，西内章，新藤こずえ，住友雄資「高知県における社会福祉士の研修ニーズ—高知県域における社会福祉士のための地域内研修システムの構築に向けた基礎研究—」高知女子大学紀要（社会福祉学部編）58, 75-84.

西内章・西梅幸治・新藤こずえ「高知県における初任スクールソーシャルワーカーの実践課題—子どもとの関わりに焦点をあてて—」平成20年度スクールソーシャルワーカー活用事業報告書（高知県教育委員会発行），14-23.

(2) 著書（なし）

(3) 発表（なし）

(4) 学内外の競争的資金の獲得状況（2件）

文部科学省科学研究費補助金（若手研究（B））「親と暮らす障害のある若者の自立に関する研究—日常生活構造と将来生活設計に着目して」（研究代表者 新藤（太田）こずえ）（平成19年～21年度）

高知女子大学学長特別枠研究・事業助成費「健康・看護・福祉領域における教育研修・研究のイノベーションと開発に関する調査研究」（主任研究者 住友雄資）のうち、「国際ソーシャルワーク教育の開発について」（分担：長澤紀美子・新藤こずえ）（平成20年度）

(5) その他（1件）

太田（新藤）こずえ「高知での活動展開の道のり」吉田三千代編著『手から手へ—飛んでけ！車いす1600台の笑顔』共同文化社.

○教育活動

講義：社会福祉ふれあい実習、社会福祉現場実習Ⅰ、社会福祉現場実習Ⅱ・Ⅲ
精神保健福祉ふれあい実習、精神保健福祉援助実習、
社会福祉特論、福祉の世界（オムニバス）

○委員会活動

全学／学部学生委員会、学部実習委員会、学部教務委員会、学部総務委員会、
学部予算委員会、学部入試委員会、国試対策支援ワーキンググループメンバー

○社会的活動

(1) 委員等

- ・特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会理事
- ・高知県社会福祉協議会 高知県ボランティア・NPOセンター運営委員会委員

- ・高知県社会福祉協議会 福祉教育・ボランティア学習推進委員会副委員長
- ・高知県NPOと行政との協働推進事業審査会委員
- ・香美市障害者自立支援協議会 相談支援部会「重症心身障害者の在宅支援について」検討メンバー

(2) 学外講師等

- ・国立病院機構高知病院附属看護学校非常勤講師（「社会福祉・演習」を担当）
- ・高知県社会福祉協議会主催「介護福祉士養成講座」講師（「障害者福祉論」「社会福祉援助技術」を担当）
- ・高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- ・南国市教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業講師

(3) 公開講座等

- ・高知女子大学社会福祉学部「高校生のための公開講座」講師（「ボランティアとNPO」を担当）
- ・こうちNPOフォーラム2008実行委員会ほか主催「こうちNPOフォーラム2008～NPOもっと知りたい、伝えたい～」実行委員

(4) 社会福祉士および精神保健福祉士国家試験を受験する学生たちへの支援活動

- ・学習方法に関する相談支援活動・アンケートに基づく個別アドバイス（随時）
- ・国家試験ガイダンスの実施（3回）
- ・試験対策講座の実施（障害者福祉論）
- ・模擬試験の受験取りまとめ
- ・国家試験勉強合宿へ同行しての学習支援

○総合評価と今後の課題

教育活動は、実習関係の指導や事務業務と、4回生の国家試験受験の支援を行った。まず、実習関係については、本学部が開講するすべての実習科目の実習の事前・事後学習に関する教育に携わっているため、個々の学生が実習を通じてどのようなことを学び、福祉職に対しての程度モチベーションがあるのかを感じ取りながら指導を行った。国試受験の支援については、今年度から総務委員会の呼びかけにより国試対策支援ワーキンググループが設置されたため、学部として学生の国家試験受験を支援する体制づくりが発足した。私は学生との面談等で学生自身がライフスタイルに合わせて計画的に学習をすすめられるよう助言を行った。そのことを通じて全国トップクラスである本学の社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の合格率の維持・向上に寄与することができたと考えている。

次に研究活動は、昨年度から科学研究費（若手研究B）を得て行っている研究「障害のある若者の自立」に関する調査を行い、2本の論文にまとめることができた。次年度は当該科研が最終年となるため、3年間の集大成としてふさわしい内容の成果を残したい。また、今年度から高知県教育委員会のスクールソーシャルワーカー活用事業のスーパーバイザーとして、同じくSVとして活動されている西内先生・西梅先生とともにその活動を論文にまとめることができた。次年度は、自身の南国市のスクールソーシャルワーカーとしての実践から得られた知見も合わせて研究を行いたいと考えている。

また社会的活動は、NPO法人「飛んでけ！車いす」の会の高知女子大学サークル「いけとべ！」の顧問として活動を行った。本年度は高知商業高校との連携により、県内で寄付いただいた車いすをラオスの病院に車いすを送り届けることができた。